

受講番号 19066 学校名 西部中学校 氏名 岡本 明美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 21名
科目名 3年生 単位数(授業時数) 1時間 使用教科書名 NEW HORIZON English Course 3 (東京書籍)

クラスの様子・特徴

英語が好きで選択した生徒はクラスの30%程度で、積極的に授業に参加しているというよりは、真面目ではあるが受身的な授業態度である。定期テストで高得点をとる生徒でも、音読やスピーキングになると自信のない様子である。

問題の確定

英語を自己表現の手段として学習する場面や、お互いが協力し、学び合える場面のある授業を作っていく。

予備調査

A 授業の観察

初回の授業で英語での自己紹介をしたが、ほとんどの生徒が3文以下の自己紹介文しか作れなかった。スピーチでも視線をそらしたままの生徒がほとんどであり、声の大きさも不十分で、話すことに対する自信のなさを感じられた。

B 生徒による授業評価

アンケート結果から、生徒の多くは、「楽しい授業」「音楽を取り入れた授業」「ひとつのことに時間をかける授業」「英語でコミュニケーションをとる授業」「リスニングを多く取り入れた授業」を受けたいと思っている。

C 学力データ

6月に実施した実力テスト(平均49.9点)では、30点未満が4名、50～59点が6名、70～79点が5名、80～89点が4名、90点以上が2名という結果であった。

リサーチ・クエスト

中学校の週一回の選択授業で、自らがすすんで辞書を使ったり、英語を使おうとするような英語学習に対する意欲を高めるにはどのような指導が効果的か。

仮説・実践・検証

仮説1

正確な発音を習得することで、音読や暗唱に対する不安感や抵抗感をなくし、自信を持ってスピーキング練習に取り組めるのではないだろうか。

実践1

今までに自信を持って出来ていない発音や、英語独特の母音や子音の発音に注目させ、各自に手鏡を持たせ、口の動きを確認させながら発音練習に取り組ませた。発音記号にも注目させ、発音記号から習っていない単語の読み方に挑戦させた。最終的には、教科書の1ページを制限時間30秒で、発音を正確に音読できることを目標に個人練習に取り組んだ。

検証1

鏡を見ながらの練習は実際に口の動きが自分で確認できるので、苦手な発音を確実に練習させ、矯正することが出来た。発音記号の学習では、発音の幅広さを認識することで、発音に対する意識を高めることができた。個々の単語をゆっくり正確に読めるようになった後の「1ページ30秒以内」の音読練習は多くの生徒が目標タイムをクリアできるように意欲的に取り組んだ。

仮説2

英語の歌詞を聞き取り、聞き取った歌詞の意味を調べることで、辞書を引いていろいろな英語の意味を探っていくことの面白みを感じることができるのではないだろうか。

実践2

聞き取りやすく、今までに習っている単語が多く出ている英語の歌を用意し、聞き取りを行った。聞き取った単語を確認した後、辞書を各自に持たせ、詩の訳に挑戦させた。各自が用意したものを発表させ、単語一つ一つにいろいろな意味やニュアンスがあることを発見させた。

検証2

ジョン・レノンの「Love」、ヘッド・ミドラの「The Rose」の聞き取りは、同じloveをテーマに既習の単語が多く出ているが、聞き取れるはずの単語が案外聞き取れなかったり、単語の意味が違う意味で使われていたり、と難しいと感じながらも面白みを感じた生徒が多かった。和訳でも生徒によって様々な訳があり、英語の単語の意味の幅広さを実感したようである。

仮説3

実際に英語を表現手段として使ってみることで、紙面にある文字としての英語ではなく、生きた言語であることを実感し、学習意欲が高まるのではないだろうか。

実践3

個人や2～4人のグループで日本文化に関する題材を調べ、Show and Tell形式での発表を行わせた。題材の決定や、役割分担、発表原稿、提示物などの準備を十分に行い、リハーサルの時間をとって、練習させた。発表には、ALTに参加してもらい、発表後、質疑応答の時間をとり、コメントを書いてもらった。コメントは後日、各自に渡し、評価を確認させた。

検証3

実際にALTに説明をし、コメントをもらったことで、英語で伝えることの面白さを体験させることができた。準備段階でも、それぞれが得意な分野で協力でき、個人・グループとそれぞれ持ち味を生かした発表が出来ていた。最初は「英語での説明なんて難しい」と感じていた生徒が、絵や身振りを駆使し、文法的に不完全な英語でも十分通じたことで、やって良かったと思える発表が出来ていた。

研究の成果

アンケートでは、英語の発音に関して、「難しかったが面白かった」「発音がうまく出来る様になった」が88%、歌詞の聞き取りに関して、「難しかったが聞き取れた時は嬉しかった」「聞き取りに関心を持つようになった」が87%、歌詞の和訳では、「辞書を使うことに慣れてきた」「訳せた時は嬉しく、面白かった」が88%、Show and Tellでは「難しかったが、面白かった」「ALTの先生のコメントが嬉しかった」「やって良かった」が93%であり、大半の生徒にある程度の成果があったと思われる。

今後の授業改善の課題

今回のアクションリサーチを通して、英語学習の手法に新しい切り口を見つけることの大切さを学ぶことが出来た。選択授業だからこそ出来た取り組みがほとんどだったが、通常の授業の中でも、何らかの形で今回の成果が生かせるように授業を改善していきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-844-0105